

花織には「緯浮花織」^{よこうき}「グーシ花織」^{てい}「手花織」という3つの技法があります。

緯浮花織は、布幅の緯糸方向に色糸を用いて模様を織ります。

手花織は、手で色糸を縫い取るように模様を構成して織ります。

読谷山ミンサー は「グーシ花織」とも呼ばれ、綿糸を用いた細帯で、模様を表すのに竹ぐし又は花綜紵を用いて織ります。

色糸で浮き出す幾何学紋様は花のように美しく、図柄に立体感をかもしだしています。この紋様に紺や縞、格子をあしらった着尺や帯、手巾^{ティーサージ}などがあります。

かつて手巾は「ウムイヌ・ティーサージ（想いの手巾）」とか「ウミナイ・ティーサージ（祈りの手巾）」と呼ばれ、愛しい人に想いを込めあるいは旅立つ肉親のために安全を祈り織ったロマンの伝わる織物です。

技術・技法

製品の特徴

花柄模様について

赤、黄、緑などの多彩な色糸でジンバナ（銭花）、オージバナ（扇花）、カジマヤーバナ（風車花）の3つを基本花とする30種余の幾何学模様の花柄を織り、これに紺や縞、格子の加わった模様があります。



カジマヤーバナ
【風車花】

97歳になると風車を配るという習慣から、長寿祈願に使用されます。



ジンバナ
【銭花】

お金をかたどった紋様。裕福になりますようにとの願いをこめて。



オージバナ
【扇花】

末広りの扇型の紋様は、幸せや繁栄が続きますようにとの願いをこめて。

経済産業大臣指定 伝統的工芸品

ゆんたんざはなうい

読谷山花織



ゆんたんざみんさー

読谷山ミンサー



伝統工芸総合センターでは、展示・販売を行なっております。ここだけでお買い求めいただける小物など、美しい手技をお届けいたします。

ACCESS

■那覇空港から自動車・タクシーで約 70 分

※カーナビをご利用のお客様は「電話番号」で検索してください。

■路線バス

- ・那覇空港発：120 番で約 90 分
- ・那覇バスターミナル：28・29 番で約 90 分



読谷山花織事業協同組合

〒904-0301 沖縄県中頭郡読谷村字座喜味 2974-2

☎098-958-4674 FAX098-979-5566

開館時間：平日（9：00～17：00）
土・祝祭日（10：00～17：00）

ホームページ <http://www.yomitanhanaori.com>



1372 年、読谷山の宇座出身の泰期は、中山の察度王の王弟として、琉球から初めて中国へ朝貢します。泰期の船出が、琉球と中国の朝貢貿易の始まりとなりました。その後 1420 年頃になると、護佐丸が座喜味へ築城し、万国津梁の鐘に記されるように、琉球は大交易時代を迎えます。大交易時代は、中国や東南アジア諸国との交易が盛んで、多くの交易品と共に、読谷山花織のルーツとなる紺や浮織の技法も伝来しました。伝来した技法を元に琉球王府時代には読谷山花織として独自に織られ、受け継がれてきました。しかし、その染織技術は明治時代の中頃から時代の波に押され衰退しつつあり、沖縄戦争後は人々の記憶からすっかり忘れ去られ、「幻の花織」となっていました。

このような約 600 年の歴史を誇る読谷山花織は、絶滅寸前となっていたましたが、1964 年に読谷村の情熱ある有志によって約 90 年ぶりに「幻の花織」が復活しました。当初は愛好会から、読谷山花織事業協同組合の組織へと発展し、現在では沖縄県指定無形文化財、経済産業大臣指定伝統的工芸品として、全国に広く知られるようになりました。

Yuntanza Hanaui

In 1372, a man named Taiki was sent by Satto, the King of Chuzan, to the Ming Court. The aim of this mission was to establish the Ryukyus as a tributary state of China and as an international trading Kingdom.

Around 1420, King Gosamaru built the castle at Zakimi in Yomitan. This was the beginning of the `Great Trading Age`. The large `Bankoku-shinryo` Bell carries an inscription which declares the Ryukyu Kingdom a prosperous country at this time.

It is thought that the techniques of Yuntanza-Hanaui, Kasuri and Ukiori originated in China and Southeast Asia. They were further developed in Yomitan and became the cotton textiles associated with the Ryukyu Kingdom Era.

Over time, knowledge and use of the techniques gradually declined. By the end of World War II they had been all but forgotten. The textile Yuntanza had 600 years tradition, but it was in danger of extinction.

In 1964, a passionate woman succeeded in reviving the dyeing and weaving techniques that had lain dormant for almost 90 years in Yomitan Village. A group of Hanaui enthusiasts formed and later became the Yuntanza Hanaui Co-operative.

Today the product is well known throughout Japan and has been recognized by the Ministry of Economy and Manufacturing as a Prefectural Intangible Cultural Asset.

読谷山花織について



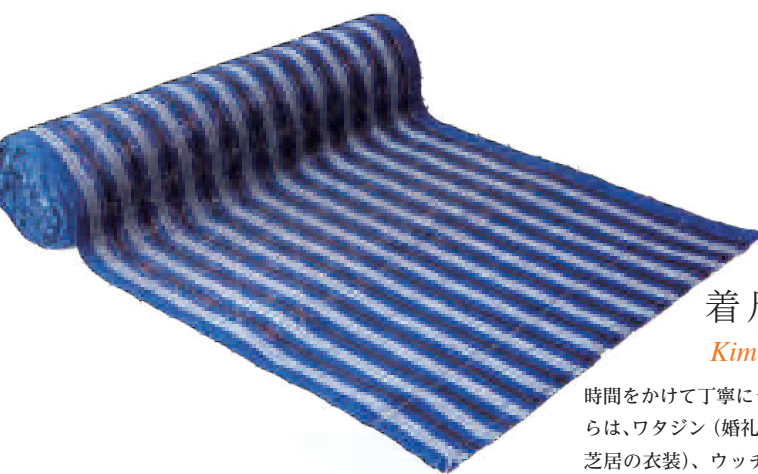
染

干

織

Product list

花織を暮らしに



着尺

Kimono Material

時間をかけて丁寧にきめ細かく織られた花織からは、ワタジン（婚礼の晴れ着）、ドゥーブク（村芝居の衣装）、ウッチャキ（踊りやエイサーの衣装）など様々な着物が作られてきました。

名刺ケース

Business Card Case



ネクタイ

Necktie



ティサージ
(手巾)

Tisaji (Tenugui cloth)

手織りの手ぬぐいのことで、意中の人のために想いを込めて織るウミイ（想い）ティサージと、旅の無事安全を祈って家族や愛する人に贈ったウミナイ（祈り）ティサージがあります。



マーストラップ（お守り）

Masu Salt Strap (Amulet)

手軽に買える人気商品。金運を祈願するジンバナや、子宝祈願のためのオージバナ、長寿祈願のカジマヤーはそれぞれに意味を持っています。



テーブル
センター

Table Center Mat

財布・印鑑入れ・
メガネケース

*Purse,
Seal-Case,
Glasses Case*



カラーバリエーション



花織を最高の品質でみなさまへ。

織り上がった花織は、厳しくチェックを行います。そして厳重な検査を経た後に、組合証紙や伝統証紙などが貼られ、晴れて伝統的工芸品となるのです。



県証紙



伝統証紙



検査証紙



読谷花織証紙

